

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】 作成： 7 年 6 月 23 日

施策番号	施 策 名	公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		
			政策名	いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり		
	主 管 課	公立芽室病院	課長名	石 田 哲	内 線	62-2811(電話)
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果		
公立芽室病院が地域包括ケアシステムの中核施設として、また、「地域住民にとって不可欠な病院」として診療機能の充実を図り、町民の理解を経ながら病院づくりをすすめます。		公立芽室病院		持続可能な診療機能体制の構築と経営基盤の強化				質の高い医療の提供		
成果指標		説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
①	患者数(外来)	病院決算状況	人/年	55,001(R3)	58,305	60,642			75,000	
②	病床稼働率(入院)	病院決算状況	%	64.8(R3)	75.5	80.2			85.0	
③										
④										
成果指標設定の考え方		①患者数(外来):“かかりつけ医”の病院機能を伸長し、内科・総合診療科を中心に患者数増加を見込み設定 ②病床稼働率(入院):他医療機関・関係施設の連携・協力等を踏まえて設定(稼働病床107床で積算)								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費 (千円)	1,818,902	1,868,090	2,041,857		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察								
①2024年度の 成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定され る理由	SNSでの情報発信、病院まつりの開催、出前講座等、導入した取り組みの継続による効果や、入院では稼働率の共有やベッドコントロール、多職種連携等が図られている。外来では、コロナ禍後も感染対策を徹底し、発熱患者や、一般患者の診療を行い、成果が向上したと判断する。					
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった							
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した							
②第5期総合計 画後期実施計画 (2026年度)の最 終的な目標達成 状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成でき る	根拠 (理由)	コロナに係る補助金が終了し、2024年度(令和6年 度)は5期ぶりの赤字決算となったが、医業収益はコ ロナ禍以前に迫る収益となった。 導入した取り組みを評価・改善・継続を繰り返し、外 来では、さらなる患者確保(選ばれる病院を目指 す)、入院では現状の稼働率を維持するとともに収益 増加を目指す。 今後も住民ニーズや、採算性・必要性等を総合的に 勘案し診療科の見直しも含めて検討していく。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難し いが、現行事業の見直しや新規事業 の企画実施で目標達成は可能							
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施 をしても目標達成は難しい							
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括								
①施策の成果向 上に対して貢献 度が高かった事 務事業	病院経営企画事務		②施策の成果向 上に対して貢献 度が低かった事 務事業					
	各種健診等実施事務							
	病院広報広聴事務							
	病院職員任免事務							
③事務事業全体 の振り返り(総括)		病院経営企画事務⇒部門別原価管理システム継続により職員の経営意識の向上が図られた。 各種健診等実施事務⇒すこやか健診、企業健診の周知方法の検討・実施による受診者増加が図られ た。 病院広報広聴事務⇒町民及び関係機関向けの講座、ホームページ、Facebook等のSNSや、病院広報 誌発行等、積極的に情報発信を行い、当院の活動等を地域住民に知っていただくことができた。 病院職員任免事務⇒退職補充や配置転換、収益確保のため、優秀な人材確保に向けて取り組んだ。						
		(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	医師の退職、変更がないことからかかりつけ医としての機能が 発揮されたことや、在宅医療の強化が図られ、医業収益は大幅 に改善されたが、費用では人件費の増加、物価高騰の負担 が増加し、さらなる経営努力が必要である。			A	B	C	D	E
			進捗結果			○		

A:実現した                      B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した                      C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した  
D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した                      E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	現在の外来診療は、総合診療科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科(出張医)を実施し、救急指定病院として24時間体制で地域住民が安心して暮らすための医療体制を構築している。また、在宅患者への対応は当院の役割の1つとして、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリの在宅医療の機能充実を図っている。 今後は、医療機関、関係施設等との連携・協力体制の強化が進むと想定し、当院の役割・機能等について、地域住民や利用者に十分理解してもらう取組と活動の推進が必要である。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	病院まつりや地域医療フォーラムの集客数や、出前講座の件数増加を見ても、当院への期待は大きいと判断する。 議会厚生文教常任委員会や病院運営委員会においては、現在の取り組みを継続するよう意見をいただいている。 病院アンケート・健診アンケートを実施し、改善しなければならない案件は、院内で協議を行い、対応を行っている。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

○令和5年3月策定の「公立芽室病院経営強化プラン」の点検・評価・公表を実施し、令和6年6月に第1改訂を行った。今後も点検・評価を行い、本プランに基づいて病院運営を取り進めていく。 ○かかりつけ病院としての、さらなる機能強化を図り、在宅医療・オンライン診療等の強化を図り、地域住民が医療を受けられる機会を増やす。 ○部門別原価管理システムを評価し、当院に合ったものに改め、職員の経営意識の醸成、多職種連携を図る。 ○予防医療の提供・推進し、すこやか健診、企業健診を積極的に展開するとともに、健診後の指導から治療に繋がっていく。 ○回復期病床の機能を有した地域包括ケア病床の拡大を目指す。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した  B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した  C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した  D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した  E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・部門別原価管理システム今後も続けていただきたい。 ・今後もかかりつけでいてもらうため、対応の丁寧さが重要。 ・職員の経営意識を高くもって患者対応を。 ・採算性等を考慮して診療科の見直しとあり、経営戦略をとる必要がある。 ・マイナ保険証で病院をまたいだ情報が早く連携できると良い。 ・リハビリの在宅診療を更なる強化を。 ・オンライン診療進めていただきたい。 ・予防医療や回復期病床の機能を有した地域包括ケア病床の強化を希望。	A:実現した  B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した  C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した  D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した  E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					